

年中4歳児 「自分の絵本を見てほしい！」

失敗しても…大丈夫！

<自分で作った物を友達や教師に見せようとする姿>

真似してみよう

12月13日～



「かおり先生、見て！」(主体的)

「100階建ての本みたくしよう」(対話的)
「二人で一緒に描こう、10階建ての家だよ」

図書室ができた！

「僕のも図書室に置いてほしい…」(主体的)



「どんな本にしようかな～？」(深い学び)



遊びの経過・どのような姿が、どのようになって、一步踏み出したと感じたか？

作ることが好きなくま組。一人でじっくり作り、教師が尋ねると何を作ったかを話すが、基本的には作って満足する姿が多い。ある日、数人が同じ場で絵を描いているうちに『10階建ての家』の絵本と一緒に作ることになった。できた絵本をすぐにいろいろな教師に自分たちで見せに行き、他のクラスの幼児にも読んでもいいことを伝える。作った絵本をクラス全体で紹介したことで、「自分の絵本を見てほしい。」「読んでほしい。」と、次々と他の幼児も作り始める。

<見取った幼児の姿> →有効だった援助

主体的

・作っている友達の様子や図書館にある手作り絵本、学級活動で教師が読んだ手作り絵本を見て、「自分も作りたい！」と次々に作り出す姿。

→学級活動で一人ずつの絵本を紹介したこと、『くま組図書室』を作ったことで、友達が絵本作りを楽しんでいることを見て分かるようにした。

対話的

・友達の作っている本を見て、同じような物を作ったり、自分の作った物を友達に見せようとしたりする。

→友達が作っている物を真似できるように見やすい環境をつくる。作った物を友達に見せる時には、話が分かりやすいよう教師が仲立ちしたり、設置した図書室が幼児同士の対話の場になるようにした。

深い学び

・自分の経験や知っていることを描いたり、見たことのある絵本を真似したり、想像を働かせて考えてみたりして、絵本を完成させる。

→作ったことをほめる、認める、教師が学級全体の前で取り上げるなどをする。何かの真似をしている物なども「これは、何と似てるね。」とそのまますを認めるようにする。

話し合いから

●一歩踏み出すために有効だった援助は？

- 絵本を作りたい**子どもたちの気持ちを認めた**。
⇒絵だけでもよい。字は教師が書いてくれる。どんな内容でも大丈夫！⇒**安心して取り組める**。
- 学級の中で作った絵本を紹介する。
⇒友達や教師に**褒められ、認められる経験**。⇒嬉しい、満足！！⇒またやりたいという気持ちにつながる。
- 色鉛筆箱や図書室などの**魅力的な環境の工夫**。⇒使ってみたい、自分の絵本を置きたいという気持ちになった。

●この経験を次にどのような経験につなげていくか？

- 絵本だけではなく紙芝居にするなど、**形や内容を変えたりしながら広げていく**。
- 写真を撮ったものを実物投影機で映すなど**いろいろな道具を活用**してみる。
- **本当の図書室に行く経験**や**本を読む楽しさを感じていける**ようにする。



自分の作った本を置く。



学級の中に図書室をつくり、友達のしていることを見て分かるように工夫。



色鉛筆を色分けして選びやすくする、見た目も美しくワクワクする様子



学級の中で作った本を紹介。

自分がやりたいタイミングで絵本を作れる環境。

